



TITLE:

大惣本目録刊行によせて

AUTHOR(S):

日野, 龍夫

CITATION:

日野, 龍夫. 大惣本目録刊行によせて. 静脩 1991, 27(3): 1-3

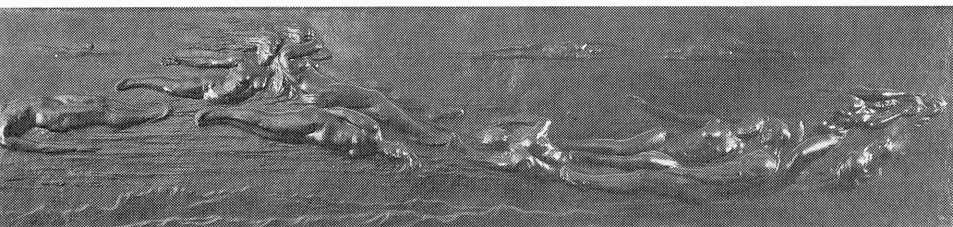
ISSUE DATE:

1991-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/37089>

RIGHT:



静脩

1991年1月

The Kyoto University Library Bulletin

Vol. 27, No.3

大惣本目録刊行によせて

文学部教授 日 野 龍 夫

京都大学附属図書館が1988年2月に第1分冊を刊行した『京都大学蔵大惣^{だいそうほん}本目録』が、1990年3月刊の第3分冊をもって完結した。その中には西鶴の『世間胸算用』や上田秋成の『雨月物語』などの重要な作品が含まれているが、ここでは、含まれている個々の書物ではなく、この目録自体の有する意義について考えてみたい。

大惣とは、江戸中期から明治32年頃まで名古屋で営業していた貸本屋、大野屋惣八の略称である。貸本屋は、あらかたの顧客が読んでしまって借り手のなくなった本を他の貸本屋へ転売しては、新しい本を仕入れ、蔵書を次々入れ換えるのが普通であるが、大惣には仕入れた本は転売しないという方針があったので、蔵書は増える一方で、江戸後期には全国一の規模の貸本屋となっていた。

その大惣が、明治31年頃に、膨大な蔵書を売却して廃業するという事になった。以後、売却の話が具体化して、翌32年4月に蔵書のうちの約3700部が京都帝大附属図書館に買い上げられるに至るまでの経緯については、本学法学部整理掛長の広庭基介氏に「京大『大惣本』購入事情の考察」（『大学図書館研究』第24号所載）というすぐれた研究がある。また廃業直前の頃に大惣が制作し

た自家の蔵書の目録が『大野屋惣兵衛蔵書目録』という書名で（惣八を惣兵衛と誤る）、早稲田大学図書館に蔵されており、同館の司書をしておられた柴田光彦氏の『大惣蔵書目録と研究』（青裳堂書店刊）に翻刻されている。

これら先学の研究で明らかになったところを簡単に要約すると、廃業時の大惣の蔵書は17000部弱であったが、そのほとんどは帝国図書館（現在の国会図書館）・東京帝大・京都帝大・高等師範学校（現在の筑波大学）に買い上げられた。うち、帝国図書館に入った約3500部、京都帝大に入った約3700部、高等師範学校に入った約500部は現存するが、東京帝大に入った分は、歌舞伎台帳・浄瑠璃本約1100部を残して、納入時の帳簿類もろとも関東大震災で焼失してしまったため、総部数も個々の書名も知られない。結果として、京大附属図書館は旧大惣本の今日における最大の所蔵者となった。

京大附属図書館における大惣本は、大惣本としてまとまって配架されているわけではなく、書物の内容に応じてそれぞれの属する分類のところにバラバラに収められている。しかし幸いなことに、明治32年の納入当時に納入業者（東京の書肆青山

堂)が作ったリストである『^{大惣}図書目録』が現在も附属図書館に保管されているので、大惣本の書名は容易に知ることができる。『^{大惣}図書目録』の分類・配列に従って書物の書誌を略記し、書名索引と、附属図書館の分類番号による索引を付したのが、このたびの『京都大学蔵大惣本目録』である。

貸本屋という業態は今日でも存在するが、それが文化の中に占める位置は、近世と今日とはまったく異なる。生活水準に比して書物の値段が相対的に高く、書物を買うことが今日ほど簡単にはできなかった近世において、職業的学者や一部の書物好きを除き、普通の人にとって、書物とはまずもって貸本屋から借りて読むものであった。近世後期の小説のうちでも値段の高かった読本は、よく売れた曲亭馬琴の『南総里見八犬伝』などでも発行部数は1000部弱であったが、この数字は、当時の江戸の貸本屋数約800と、大坂の貸本屋へ送られた分200部弱とに見合っているという。

人々の生活の中にはいりこみ、教養ないし知的娯楽への欲求に応えたという点で、近世の貸本屋は恐らく今日の公共図書館よりも大きな役割を果たした。明治中期頃までは確かに続いたその役割は、明治の文学者の少年時の回顧談などにしばしば語られている。森鴎外の史伝『細木香以』の冒頭に次のようにいう。「わたくしは少年の時、貸本屋の本を耽読した。貸本屋が^{おい}笈の如くに^{かさ}積み重ねた本を背負って歩く時代の事である。其本は読本、^{かきほん}書本、人情本の三種を主としてゐた。読本は京伝、馬琴の諸作、人情本は春水、金水の諸作の類で、書本は今謂ふ講釈種である。さう云ふ本を読み尽して、さて貸本屋に「何かまだ読まない本は無いか」と問ふと、貸本屋は随筆類を推薦する。これを読んで伊勢貞丈の故実の書等に及べば、大抵貸本文学卒業と云ふことになる。わたくしは此卒業者になった」。

坪内逍遙は、少年時代を名古屋の郊外で過ごした人であったから、ほかならぬ大惣へ盛んに入りして近世の小説に親しんだ。『小説神髓』にはその体験が様々な形で反映している。我々の手にする京大蔵の大惣本の中には、かつて坪内雄蔵少

年が読み耽った本があるはずである。

『京都大学蔵大惣本目録』は、このような往時の貸本屋文化の一斑を伝える資料という意義を有しており、眺めていると種々の発見がある。

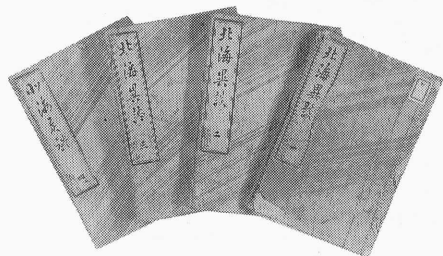
たとえば、もとになった『^{大惣}図書目録』では、近代書誌学以前の独特の分類によって書物を64部門に分っているが(その分類が大惣ですでになされていたものなのか、京大納入に際して納入業者が行なったものなのかは分らない)、諸部門のうちもっとも、それも飛び抜けて多くの書物を含むのは浄瑠璃丸本の部である(丸本は、特定の章段を抜き出した段物^{たんもの}に対して作品全体を収めた本をいう)。類似の部門である歌舞伎台帳も写本・版本を合せてかなり多い。京大蔵の大惣本は廃業時の大惣の全蔵書の2割強に過ぎないから、元来の大惣の蔵書構成においても浄瑠璃本がもっとも多かったかどうかは分らない。しかし、前述の東大図書館に現存する分を含めて、浄瑠璃本・歌舞伎台帳が非常に多かったことは間違いない。これはもちろんこれらの本の需要が多かったからに相違なく、近世の人々が、浄瑠璃や歌舞伎を、舞台上演ぜられるのを見て楽しむだけではなく、読物としても、小説以上にといつていほど愛好していたことをうかがわせる(江戸や京大坂に比べてナマの舞台に接する機会の少なかった名古屋という土地柄を考慮する必要はあろう)。

次に多くの書物を含むのは、仏書の部である。仏教の影響が今日とは比較にならないほど大きかった時代ということを考慮に入れても、貸本屋から借りてまでも仏書を読もうとする人が多かったという近世の精神生活のありようは、やはり驚異ではあるまいか。

どの部門ということなく、写本が多いことにも興味が引かれる。一体、近世はすでに出版が企業として成立していた時代で、書物は版本が普通の形であったにもかかわらず、写本も中世までと同様に盛んに作られた。その理由は色々であって、『京都大学蔵大惣本目録』を見ているだけでも幾つかのことに気づく。一つだけ挙げると、出版すれば処罰されるような内容の書物を、貸本屋が写本として流布せしめるということがあった。それ

は、まず第一に徳川家や諸大名家の記録など御公儀・御政道にわたる事がらを扱った書物で、幕府写本という部門に多く収められている。「幕府写本」という部門名が実に直截で面白い。

そういう書物が、幕府写本に限られず、意外な部門にも潜んでいて、油断がならない。たとえば随筆写本追加という部門に『北海異談』という作品がある。これは文化年間に大坂で成立した破天荒な軍記講釈で、蝦夷地（北海道）を侵略したロ



シアに日本が立ち向い、函館沖の海戦で幕府と諸藩の連合艦隊がロシア艦隊を撃滅するという架空の戦争の顛末を書き綴る。『赤蝦夷風説考』などに見られるロシアの南下政策への当時の関心の、庶民レベルでの現れであろうが、それにしても驚倒すべき想像力で、作者の講釈師たちは世間を騒がせたかどにより獄門に処せられた。したがって、これはかなりヤバい書物のはずであるが、こういうものを何食わぬ顔で写本随筆などと称して貸し出すところに、大惣の、というより近世の貸本屋のしたたかな根性と、貸本屋文化の注目に値する役割があった。

書名検索の手段としてだけでなく、近世人の読書生活に内在する種々の問題を考える資料としても『京都大学蔵大惣本目録』が活用されることを、編集に関与した者として念じてやまない。

T S S オンライン目録検索の利用状況について

平成2年10月1日より“TSS オンライン目録検索サービス”の運用を開始してから3ヶ月が過ぎました。ここで、現在の利用状況と利用上の留意点についてお知らせいたします。

利用状況：12月末現在の利用申請者（登録者）は153名で、その部局別の内訳は「表1」のとおりです。また、1日を単位にアクセスした人数をカウントした利用数（同じユーザーIDでアクセスした場合、1日何回アクセスしても一人とみなす）は「表2」のとおりで、1日平均の利用者は約4名でありました。

利用上の留意点：（1）外字（非漢字の文字、記号）について；PC98系の端末（利用者の圧倒的多数が使用）等、TTY手順の端末では、通常附属図書館のホストコンピュータから、JIS以外の

文字（つまり外字）が転送されないので、外字は一切表示されず「：」に転換されます。ドイツ語のウムラウトのようなポピュラーなものも外字扱いとなり表示されないので、注意が必要です。

（2）通信ソフトについて；PC98系の端末用に、大型計算機センター提供の3種の通信用ソフトがありますが、「戸田版エミュレータ」以外のものは、図書館のホストとつないだ場合、漢字変換がうまくいかないで、上記ソフトの使用をお勧めします。

なお、附属図書館のコンピュータ室では、「戸田版エミュレータ」のほかに、マッキントッシュ用の通信ソフトも用意し、希望者に配布しています。

（システム管理掛）